

2018 年卒  
Vol.9

## 8 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017 年 8 月発行)

採用選考解禁から 2 カ月が経過し、2018 年卒業予定者の就職採用戦線は着実に収束に向かって  
いる。8 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったとこ  
ろ、内定率は 9 割に迫る高水準だったことがわかった。

### 1. 8 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 88.2%。7 月調査 (83.2%) より 5 ポイント上昇
- 前年同期実績 (85.8%) を 2.4 ポイント上回る
- 就職活動を終了したのは全体の 80.9%。継続者は 2 割弱

### 2. 内定を辞退した企業について

- 「もともと志望度が高くなかった」77.8%、「条件面が希望と合わなかった」31.9%
- 希望と合わなかった条件は「給与・待遇」52.2%、「勤務地・転勤」48.3%の順

### 3. 就活継続者の今後の動向

- 持ち駒企業は平均 2.7 社。今後エントリーを予定している学生の平均予定社数は 5.2 社
- 持ち駒を増やすために見直すことの筆頭は「志望業界の見直し」51.6%
- 新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」87.7%、「求人票」39.5%の順

### 4. 就職決定企業へのエントリー時期

- 「3 月上旬」に集中 (45.6%)。「3 月より前」の合計が 18.0%

### 5. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング (当初志望度別)

- 第一志望の企業に決めた学生は「インターンシップ参加時」が最多 (28.2%)
- 第一志望ではないが入りたい企業、志望していなかった企業に決めた学生は、ともに「選考試験を重ねていく中で徐々に」が最多 (38.0%、42.2%)

### 6. 就職活動終了者が就活を再開する可能性

- 「再開する可能性がある」15.6%、「絶対に再開しない」84.4%

### 7. 就職活動方針の変化 (3 月調査との比較)

- 広報解禁直後の方針と、実際の進め方で乖離。当初予定より絞って活動
- 「個別企業のセミナーにできるだけ参加」「学内セミナーにたくさん参加」は予定より減少
- 「事前に業界を絞ってから活動」「企業を絞って活動」は増加

## 調査概要

調査対象 : 2018 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)  
回答者数 : 1,188 人 (文系男子 385 人、文系女子 332 人、理系男子 309 人、理系女子 162 人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2017 年 8 月 1 日~7 日  
サンプリング : キャリタス就活 2018 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

## 1. 8月1日現在の内定状況

8月1日現在の学生モニターの内定率は88.2%。企業の採用意欲の高さを背景に、極めて高い数字が出た。先月調査(7月1日現在)では83.2%だったので、この1カ月間の伸びは5ポイント。内定率は4月以降、毎月20ポイント前後のペースで上昇してきたが、ここに来てペースダウンし、就職戦線がかなり落ち着いたことが読み取れる。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは87.1%。7月調査(74.2%)より12.9ポイント増えた。モニター全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は76.9%(グラフは次ページ)。複数内定を保留しているなど未決定である者(4.0%)を合わせると80.9%となる。活動継続者は、内定・未内定を合わせて2割弱。

### 8月1日現在の内定状況

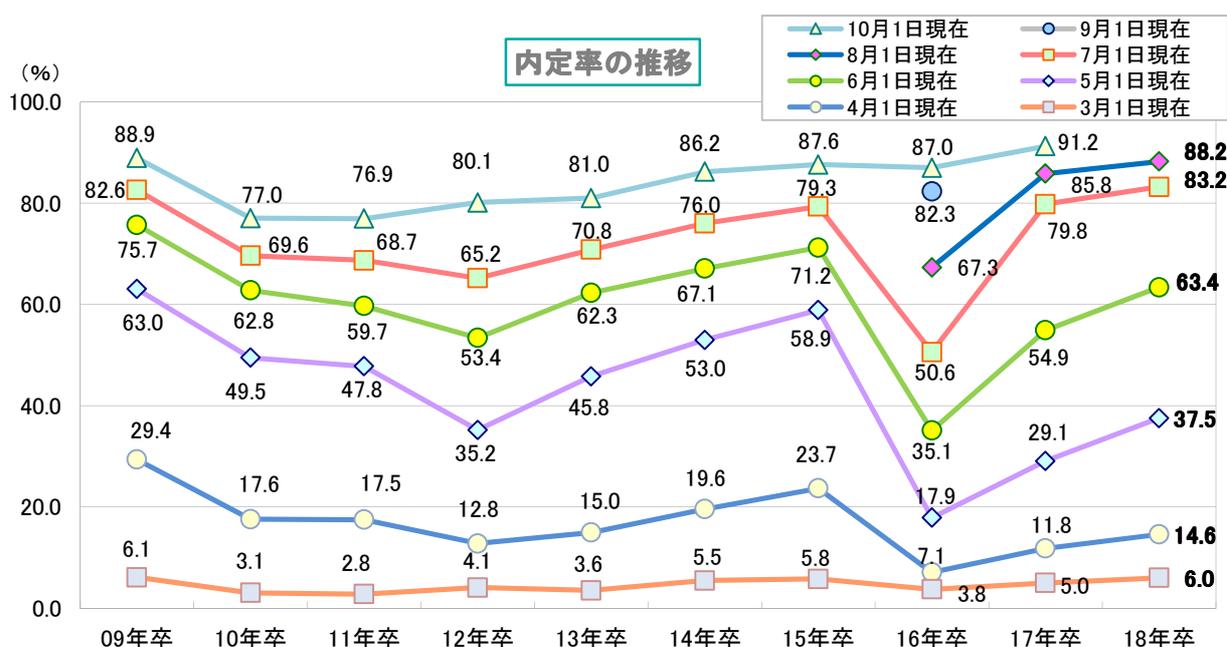
\*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		88.2 (85.8)	84.7 (80.7)	90.7 (87.1)	87.7 (88.6)	92.6 (90.6)
内定なし		11.8 (14.2)	15.3 (19.3)	9.3 (12.9)	12.3 (11.4)	7.4 (9.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	87.1 (83.9)	82.2 (79.8)	85.0 (85.2)	92.3 (89.8)	92.7 (78.6)
	活動は終了したが複数内定保持	4.0 (4.3)	5.8 (6.1)	4.3 (4.7)	3.0 (2.7)	1.3 (2.4)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (0.3)	0.6 (0.3)	0.3 (0.0)	0.4 (0.4)	0.7 (0.8)
	就職活動継続	8.4 (11.5)	11.3 (13.8)	10.3 (10.1)	4.4 (7.0)	5.3 (18.3)

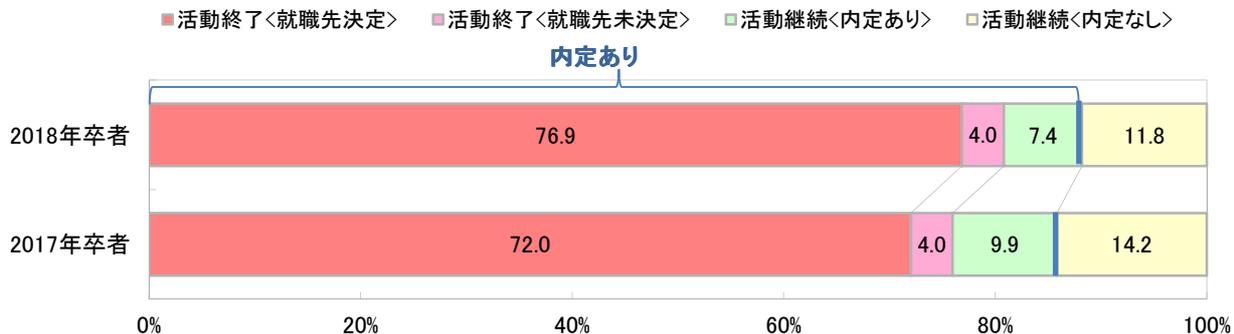
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.2)	2.4 (2.3)	2.2 (2.2)	2.2 (2.1)	2.1 (2.3)

※ ( ) 内は前年(8月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒・18卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

学生モニター全体の活動状況

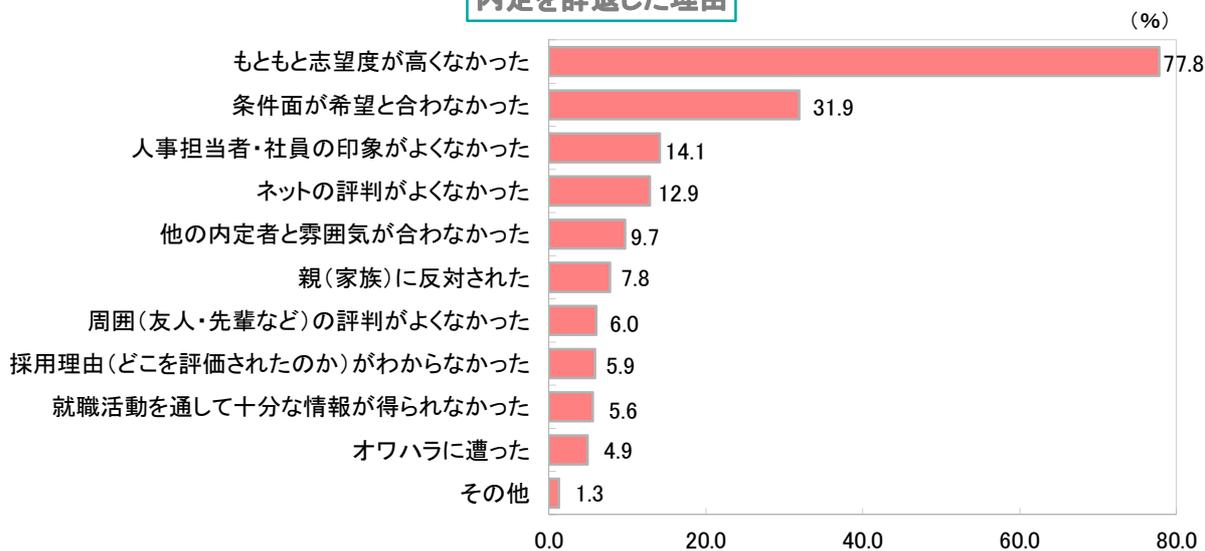


2. 内定を辞退した企業について

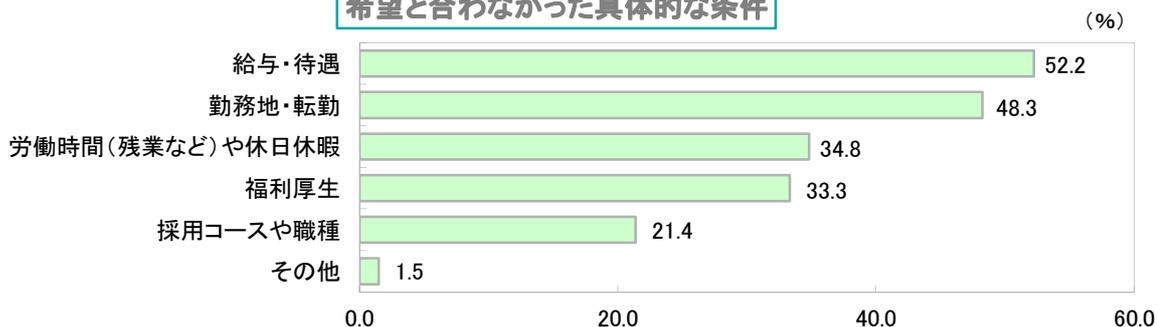
内定を得た学生のうち内定を辞退したことがある者(内定者の60.1%)に、辞退理由を尋ねてみた。最も多いのが「もともと志望度が高くなかった」で、77.8%と際立っている。学生の本音が透けて見える。2番目は「条件面が希望と合わなかった」(31.9%)だが、希望と合わなかった条件を重ねて尋ねると、「給与・待遇」(52.2%)が過半数に上り、「勤務地・転勤」(48.3%)と続く。

辞退理由のうち、「人事担当者・社員の印象がよくなかった」(14.1%)、「採用理由がわからなかった」(5.9%)、「十分な情報が得られなかった」(5.6%)などは、企業側が見直すことで内定承諾に繋がるのが期待できそうだ。

内定を辞退した理由



希望と合わなかった具体的な条件



※「条件面が希望と合わなかった」と回答した者が回答

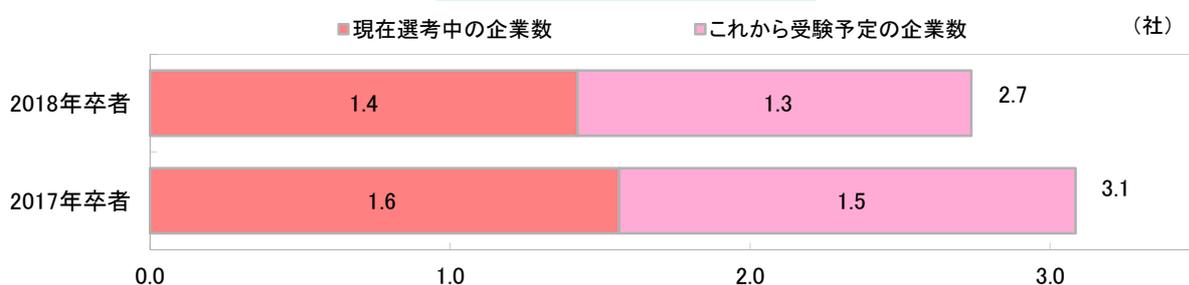
### 3. 就活継続者の今後の動向

内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の19.2%）の、現在選考中の企業数は平均1.4社。これから受験予定の企業数1.3社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は2.7社となり、前年同期（3.1社）をやや下回る。

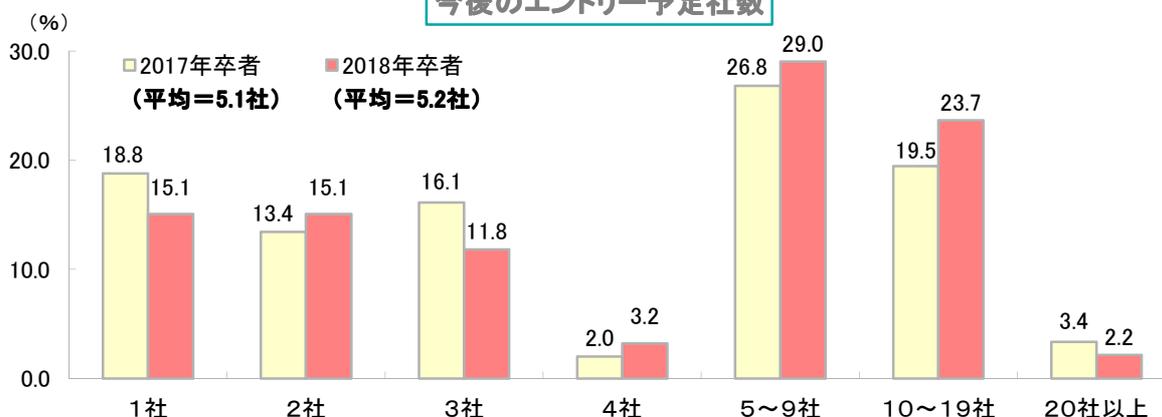
今後、新たな企業へのエントリーを予定しているのは継続学生の約4割（40.8%）で、予定している社数の平均は5.2社。その分布を見ると、「5～9社」が29.0%で、「10～19社」が23.7%。思うような結果を出せていない学生が、意欲的に持ち駒を増やそうとしていることが想像できる。

継続学生に今後見直すことを尋ねると、「志望業界の見直し」が過半数に上った（51.6%）。企業側から見れば、業界研究を始めたばかりの学生の訪問が増える可能性がある。業界理解が進む内容の説明会を開催したり、面接の場でも知識を補ったりするなど、後半戦ならではの情報提供が求められそうだ。

8月1日現在の持ち駒企業数

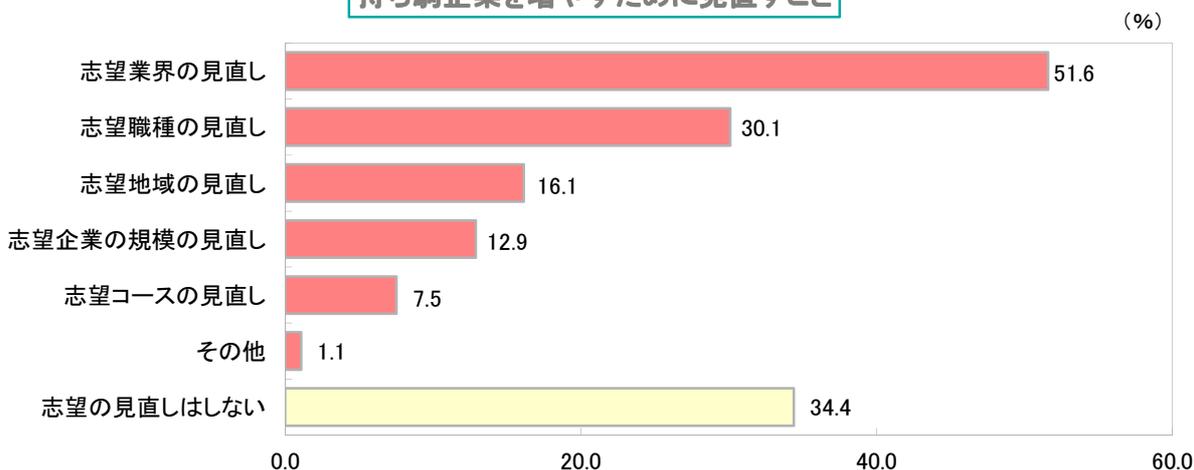


今後のエントリー予定社数

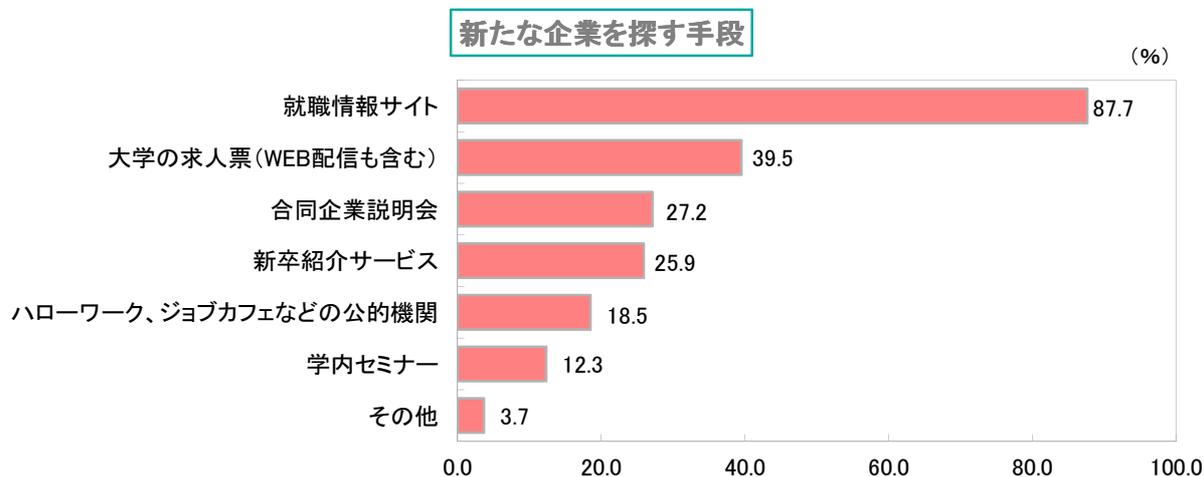


※平均社数は、エントリー予定社数を「1社以上」と回答した者の平均値(0社を除いて集計)

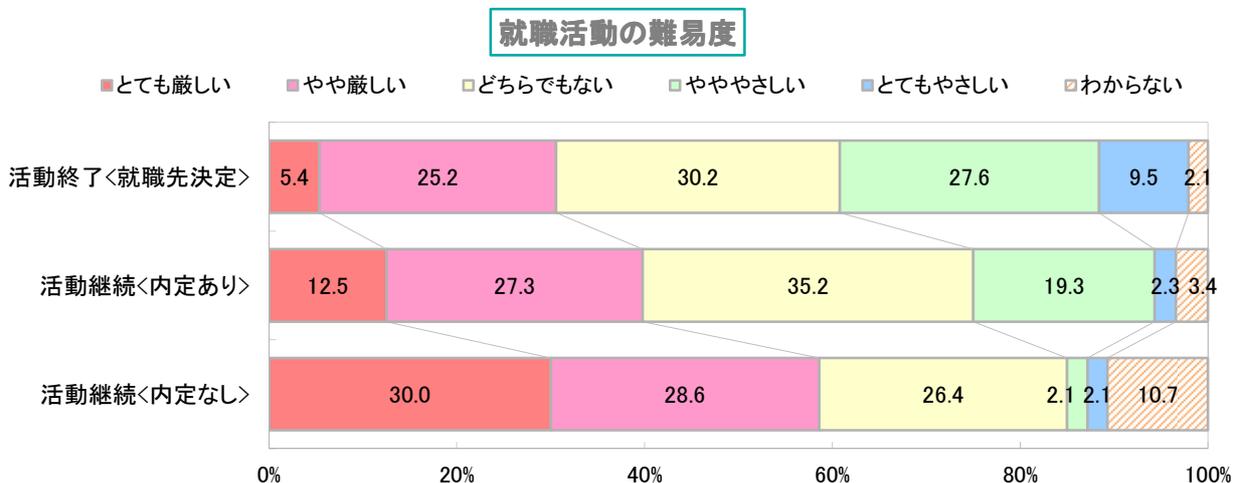
持ち駒企業を増やすために見直すこと



今後、新たな企業にエントリーを予定している学生に、企業を探す手段（ツール）を尋ねると、「就職情報サイト」が87.7%で圧倒的に高く、後半戦も引き続き主要な出会いのツールとして使用されていることが確認できる。また、「求人票」（39.5%）、「合同企業説明会」（27.2%）、「新卒紹介サービス」（25.9%）と続き、様々な手段で希望に合う企業を探そうと講じている様子が見て取れる。



モニター学生全員に自身の就職活動の難易度を尋ね、内定有無など就活の状況別に集計してみた。活動終了者では4割近く（37.1%）が「やさしい」と振り返り、「厳しい」（30.6%）を上回っているのに対し、継続者では厳しいとの回答が多い。特に、内定のない学生では「厳しい」6割に迫り（58.6%）、厳しさが際立っている。継続している学生からは、自身の見立ての甘さを痛感する声が多く挙がった。

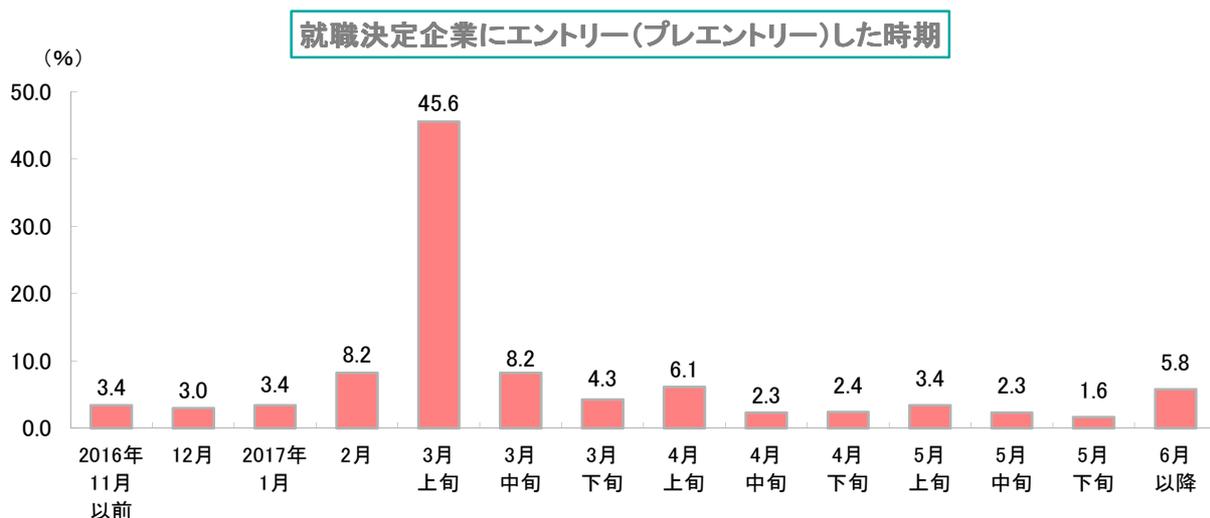


### ■継続学生の声

- 周りが決まっている中、自分が決まらずとても焦っている。卒業研究との両立も厳しい。 <文系女子>
- 結果が得られず、志望業界の見直しを行おうとしています。内定がない焦りはとても大きいですが、心機一転新たな業界にチャレンジし、研究を行い、「ここに入りたい」と思える企業を見つけ出したい。 <理系男子>
- 面接どころか筆記や書類の時点で落ちており、夏までに内定を取る予定が実現できていない。 <文系女子>
- 面接の初期段階で落ちまくっていることが多くて、その要因を考えています。それに向けた対策や練習を行った上で面接に挑みたいと考えています。 <理系男子>
- 自分が働きたいと思う企業がない。 <理系女子>
- 早く決めたい思いと、妥協したくない思いがある。 <文系男子>

#### 4. 就職決定企業へのエントリー時期

ここからは、就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 76.9%）のデータをいくつか紹介したい。まず、就職決定企業にいつごろエントリーをしていたのかを尋ねたところ、採用広報開始直後の「3月上旬」に集中していることがわかった。45.6%と半数近くに上る。また、3月より前のプレ期の合計が 18.0%。現在就職先が決まっている学生の多くは、就職活動解禁当初に志望していた企業を中心に就職活動を行い、そのまま内定に至っている様子が見える。



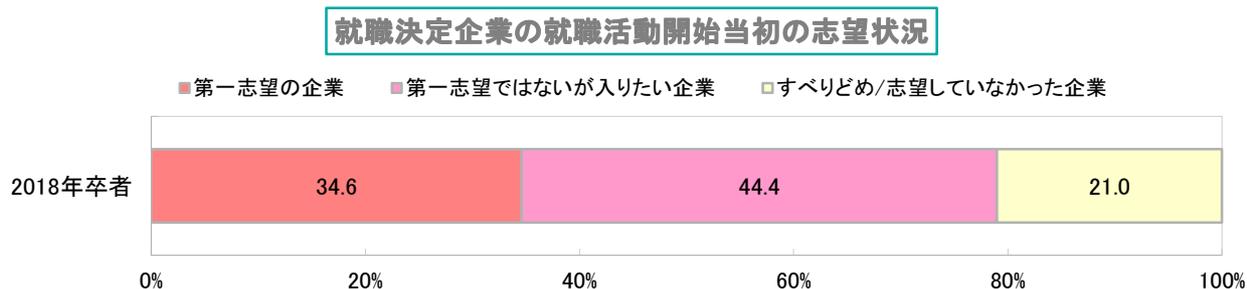
#### 5. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング (当初志望度別)

就職決定企業の就職活動開始当初志望度と、その企業で働きたいと具体的に思ったタイミングにはどのような関係があるのかを調べてみた。

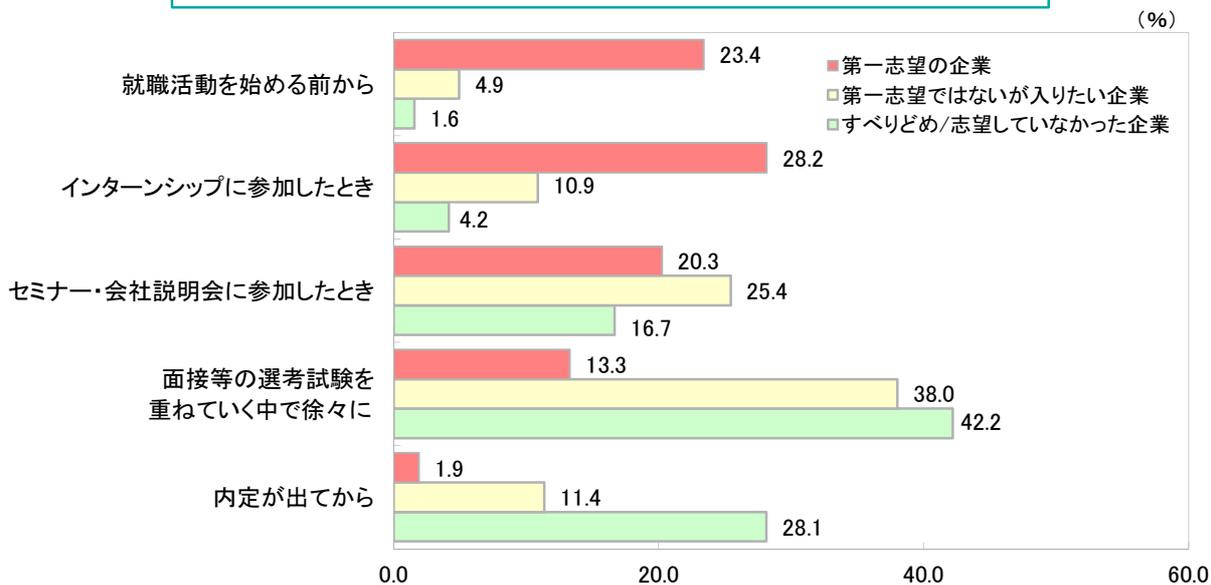
決定企業の当初の志望状況の分布は、「第一志望の企業」という回答が 34.6%、「第一志望ではないが入りたい企業」は 44.4%で、「すべりどめ/志望していなかった企業」が 21.0%。

第一志望の企業に決めた学生が、この企業で働きたいと思ったタイミングは「インターンシップに参加したとき」が最も多く、28.2% (グラフは次ページ)。次いで、「就職活動を始める前から」が 23.4%で続く。かなり早い段階からその企業で働きたいと考えていたことがわかる。

一方、「第一志望ではないが入りたい企業」「すべりどめ/志望していなかった企業」に決めた学生では、「選考試験を重ねていく中で徐々に」がそれぞれ 4 割前後で最も多い (38.0%、42.2%)。第一志望ではないが入りたい企業に決めた学生が次に多いのは、「セミナー・会社説明会に参加したとき」(25.4%)で、実際に採用担当者などと接点をもったことで志望度が上がったと考えられる。当初は志望していなかった企業に決めた学生は、「内定が出てから」という回答が 3 割近くあり (28.1%)、内定後に改めて企業研究をすることで入社意思を固める学生が比較的多いようだ。



就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング(当初志望度別)

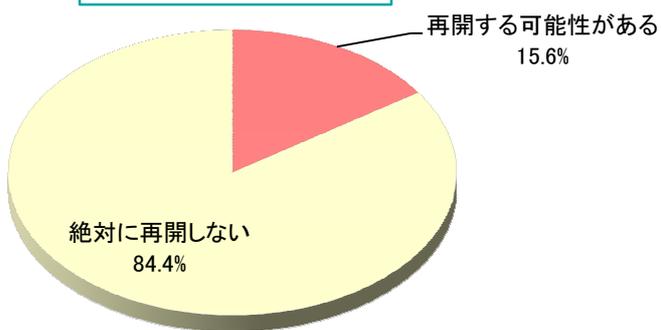


6. 就職活動終了者が就活を再開する可能性

夏採用や通年採用など、採用活動期間を長くとする企業も多いが、就職活動を一旦終了した学生が再開する可能性はあるのだろうか。就職決定企業よりも条件に合う企業を見つけた場合に、「再開する可能性がある」という学生は 15.6%。終了者の 8 割以上 (84.4%) が「絶対に再開しない」と回答した。

再開する可能性のある学生のコメントを見ると、再開にあたり具体的な条件を挙げる声は少数で、積極的に再開を考えている学生はあまり多くないようだ。一方、絶対に再開しないという学生では「就職先に満足している」という声が圧倒的に多く、「いまさら面倒」という意見も少なくなかった。

就職活動再開の可能性



※就職先を決定し、就職活動を終了した者が回答

■再開する可能性がある学生

- 第一志望だった企業からの特別オファーがあるなら。 <文系女子>
- 同じような条件（福利厚生や従業員の雰囲気）で、給料が異常に高かった場合。 <理系男子>
- 決定している企業以上に自分がワクワクできる企業。 <文系男子>
- 内定者懇談会等に参加し雰囲気を確認した後、自分に合わないと感じた時は再開します。 <理系女子>

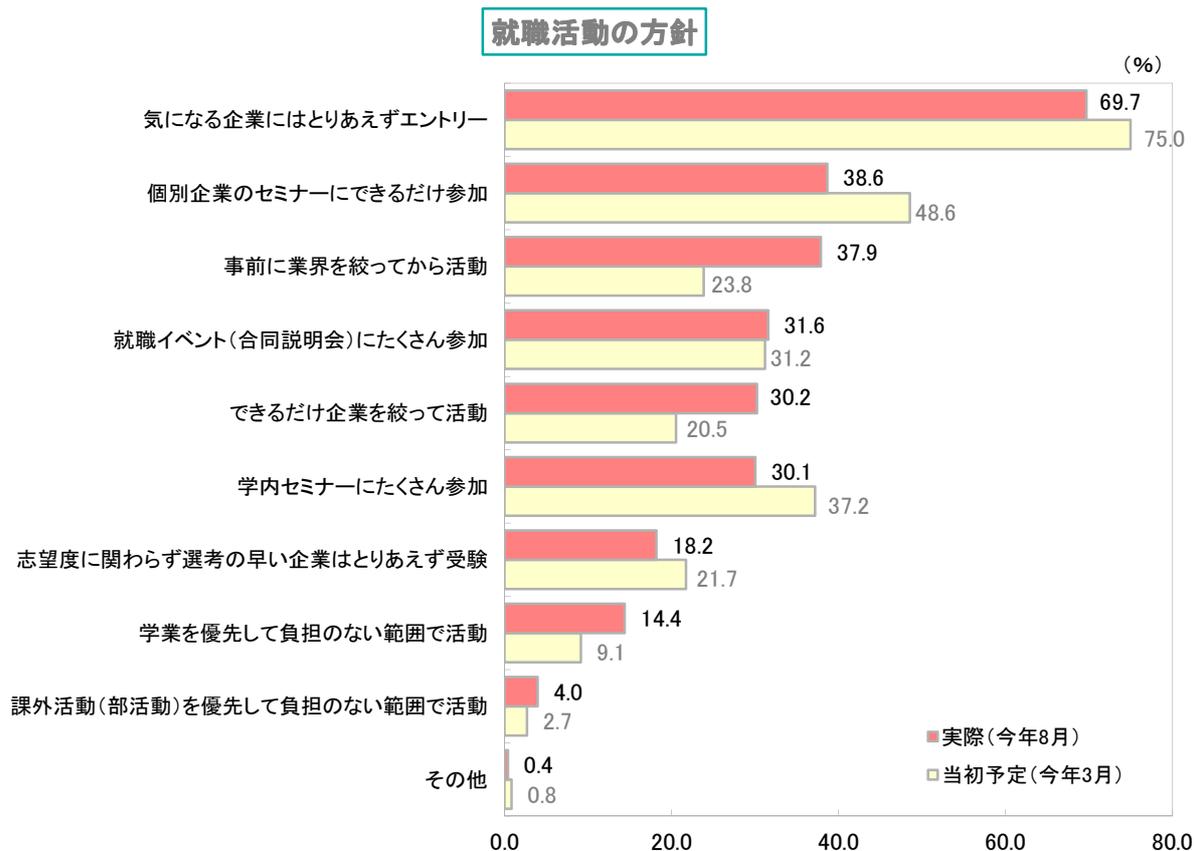
■絶対に再開しない学生

- 就活はもうしたくないし、現在内定を貰った企業に満足している。 <文系女子>
- 既に会社の同期とも交流をしており、これから離脱することは考えられない。 <文系男子>

## 7. 就職活動方針の変化 (3月調査との比較)

モニター学生全員に、就職活動をどのような方針で進めてきたかを尋ね、今年3月に調査した当初予定と比較した。どちらも最多は「気になる企業にはとりあえずエントリー」だが、前回75.0%→今回69.7%と、5.3ポイント下がった。また、「個別企業のセミナーにできるだけ参加」は10ポイント減(48.6%→38.6%)、「学内セミナーにたくさん参加」は7.1ポイント減少した(37.2%→30.1%)。

逆に、「事前に業界を絞ってから活動」は14.1ポイント増加(23.8%→37.9%)、「できるだけ企業を絞って活動」が9.7ポイント増加しており(20.5%→30.2%)、当初の予定よりも実際は絞って活動した傾向が見られ、覚悟していたほど多くの企業を回らずに済んだ学生が多かったと解釈できる。



### 【参考】

